

平成26年 月見月

本年4月29日、長岡市立科学博物館は柳原分庁舎から元市役所があった幸町さいわいちょうの「さいわいプラザ」に移転しリニューアルオープンした。

「さいわいプラザ」正面玄関を入ったところでは、天井からつりさげられた巨大な海牛親子の復元模型が入館者をお待ちしている。

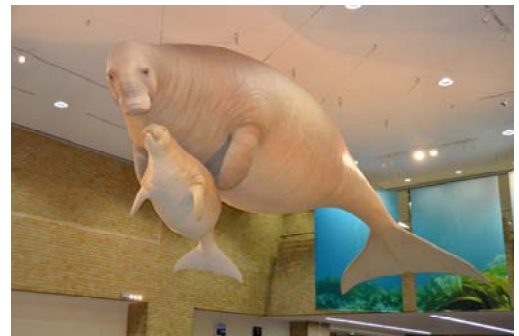
この海牛の愛称は「ミョウシー」で親の体長は8mある。10年前の中越大震災の折り、長岡市妙見町みょうけんまちの崩れた崖から200万年前の骨格が発見され、その一部を当館が保存した。その骨格を基に肉付けをして復元模型を完成させ、皆様にお披露目した次第である。館内にはミョウシーの骨格模型も合わせて展示している。

新しい科学博物館は旧施設よりも照明が明るくなり、現代的な工夫を凝らした展示になって、動植物の標本や各展示物は一段と輝きを増し見やすくなっている。

続く6月15日には「長岡藩主牧野家史料館」が科学博物館と同じ「さいわいプラザ」3階に開館した。前日の14日には県内外から大勢の方々をお迎えして盛大な開館式典が開催された。

牧野家史料館に入館してまず目を引くのが1/300縮尺で作られた、これまでにない精巧な長岡城の模型である。3m四方の大きさで、江戸時代の絵師が描き残した長岡城の絵画や地図などを基に制作されている。

長岡は250年間つづいた城下町であるが、現在その面影を残すものは皆無と言って良い。そこで今回模型を作り、昔あった長岡城とその周辺を再現した。



エントランスホールでは、巨大な海牛親子の復元模型がお出迎え。



展示室中央には長岡の地形模型を配置。映像とともに各地の様子を見ることができる。

かつて本丸があったところには現在 JR 長岡駅が、二の丸にはアオーレ長岡（長岡市役所）があり、大手通りも一目で位置がわかるように上からライトを照らす事が出来るようになっている。

本丸御殿内の大広間（藩主御座所）の床の間も再現している。この床の間は「12月歳暮御祝儀諸士一列にて拝謁の図」の絵図から採ったもので、

壁は一面市松模様である。市松模様は京都の桂離宮の床の間にも現されており、アオーレ長岡の外壁も同じ模様デザインされている。今後は床の間の掛け軸を季節ごとに取り換えながら飾り、展示がマンネリにならないように心がけたいと思っている。

館内の展示構成は牧野家が発祥した室町時代の三河豊川の牧野城時代から、江戸時代長岡藩250年までを時代の流れに沿って展示している。



長岡城復元模型について解説する筆者



手前：長岡城復元模型
奥：本丸御殿内大広間の床の間を再現

また、市民の皆様が大切に保管されている歴史資料を展示するコーナーも設けている。初回は刀剣と甲冑を提供いただきご披露している。

当館は子供たちに多く来館してもらい、少しでも郷土の歴史に興味を持ってほしいと願っている。そのためには展示方法、展示表現などを工夫し、気楽に史料館を訪ねてもらうようにしなければならないと考えている。

長岡藩主牧野家史料館開館から1週間目には入館者数1,000人を超え、8月末現在約5,000人を迎えた。当館は長岡の皆様のご協力と長岡市のご英断により完成したことを心より御礼申し上げる。



牧野家発祥の地、愛知県豊川市からも大勢の子供たちが来館

平成30年（2018）には長岡藩開府400年を迎える。あと4年後に迫ってい

るが、当史料館開館は開府400年記念事業の一環として位置付けている。長岡は戊辰戦争と第二次世界大戦と二度の戦火に遭い、歴史資料は焼失したと言われている。しかし、ご先祖から伝わった品々は大切に保存されて皆様のお宅に残されていると思われるので、そのようなお宝を是非当館で展示させて頂ければ、より一層長岡藩の歴史が読み取れるのではないかと思っている。今後も皆様のご協力を心よりお願い申し上げます。